



# 町連協だより

第 12 号  
 平成 15 年 3 月 1 日  
 ◆発行◆  
 千歳市町内会  
 連絡協議会  
 千歳市総合福祉センター  
 TEL(0123) 27-2525

◆印刷◆  
 道央プリント  
 千歳市青葉6丁目1-8  
 TEL(0123) 23-5535

「ふれあいのある町内会活動を目指して」

三分科会に分かれて熱心な討議

平成十四年度町内会役員等

研修会を実施

平成十四年度(第五回)町内会役員等研修会が、去る十月二十六日午後一時より福祉センター四階を会場として開催されました。会場の関係で三分科会構成でしたが、参加者は一九九名でした。本年度は過去四回の研修会の積み重ねであるため、共通テーマを「明るく楽しいふれあいのある町内会活動を考える」と設定しました。

第一分科会は総務部会、第二分科会は青少年部会、第三分科会は婦人部会でした。各部会の概要をお知らせします。  
**★第一分科会(総務部会)**  
 参加者は八十一名で、分科会テーマを町内会の親睦・親和



を図るための行事としてどんなものがあるか、また、町内会費はいくらが良いのか、の

二点に絞って研究討議をしました。

行事については、「夏まつり、盆踊り、町内運動会のある方」などについて討議しました。行事の計画や実施の段階では、役員にかなりの負担がかかることや、年々役員も高齢化している事などが問題点として出されました。

また、町内会によつては商店街のあるところでは、商店街の行事との関係で苦勞をしているということでした。

しかし、行事の計画の段階では、子供達の意見を聞いたり、内容を工夫して興味のある行事(焼きとりなどのメニューを入れた)を組んだり、役員の熱意と頑張りで成功した発表もありました。

行事の計画・実施の段階では役員は大変苦勞するが、実施後では、町内会員の連帯感と、会員の親睦には大いに役立つという発表でした。



又年々増えてゆく高齢者の福祉活動について討議しました。実践例として、誕生祝いの会、健康相談会、子供たちとの年末交流会等それぞれ町内会で工夫をして実施し、大変喜ばれているということでした。また、社会福祉協議会の協力を得て独居高齢者や障害者世帯の除雪支援、歳末のおせち配食などを実施している町内会も多数ありました。

会費の徴収については、部会参加者の大半は月三百円でした。中には五百円の町内会が四町内、二百円会費の町内会もありましたが、行事を組



むのには予算の関係で大変苦勞しているということでした。  
**●第一分科会「青少年部会」**  
 「学校五日制における町内会の子供活動と学校との関係」というテーマのもと、始めに各町内会の青少年活動状況を発表してもらうことから討議に入りましたが、郊外、市街地に共通して言えるのは、少子化による町内会の子供行事の取組み等に支障が起きている事で、それでも郊外の町内会はまだ比較的子供が多い事から行事を実施し易く、中心街に来るに従って、子供行事

に悪戦苦闘しているようであり  
ます。又、市教育委員会の  
調査報告では、完全週五日制  
については、大方の子供には  
受け入れられておりまして、  
その過ごし方についてもそれ  
なりに目的を持って過してお  
り、子供会、青少年団、文化  
団体、等にも自主的に参加さ  
れていると云う事でありませ  
ぬ。このような調査報告書を参  
考にし、今後は市、学校、地域  
と共に話し合いをし、お互い  
に情報交換をしながら、行事  
の計画をしてゆく必要がある  
と云う結論で、大変意義のある  
討議を終了致しました。

●第三分科会(婦人部会)

「男女共同参画社会におけ  
る地域婦人部活動のあり方」  
を研究テーマに、七十名余り  
の女性会員が、熱心に討議を  
致しました。

本年は千歳市女性施策課の  
方々の助言を受けながら、特  
に男女共同参画に関するアン  
ケート結果を題材にして、グ  
ループ討議をして種々な課題  
を掘り起こしたことは大きな  
研修の成果だと思えます。

これらを踏まえて女性が積  
極的に社会参加し、あるいは

町内会活動に参加することが  
必要である事を再認識して討  
議を終了しました。



道町連共済ですすめる住みよいまちづくり

道町連共済の  
ご案内



安心して活動に参加いただくために  
道町連共済は、町内会・自治会な  
どの町内会活動中に事故にあわれた  
とき、見舞金を支給する会員相互の  
助けあい制度です。  
年二百円の会費で最高二百万円の  
見舞金を支給します。加入はいつで  
も受け付けています。

町内会のご紹介

「和風の町」静和

静和町内会

会長 畑 中 盛

わが町、静和町内会は、新  
築移転された市民病院の西隣  
り北光一丁目位置する一一  
〇戸の小規模町内会です。

まず、町内会名の由来から  
紹介しましょう。千歳市の発  
展に伴い昭和五十二年頃より  
宅地化され、住宅の建築が始  
まりました。地主でありまし  
た新岡二之平夫妻は、町内会  
の誕生にあたって町名を静和  
と命名されました。それは、  
自分達の理想郷として静かで  
落ち着きのある所で、人々が  
和やかで平和に暮らせたら良  
いなあと強い願いが込め  
られているのです。

町内会の発足は昭和五十三  
年であります。以来活動の基  
本理念として静和の心の具現  
化を図っております。当初の  
役員は、行事の策定にあたり  
「参加しやすい環境」と「活  
動を通しての心のふれあい」



を大切にしておられました。  
その精神は、今も脈々と受け  
継がれております。

さて現在の町内会活動状況  
を簡単に紹介しますと今最も  
力を注いでいるのは、①子供  
会の育成と②シルバー世代の  
生きがい活動であります。

一、子供会活動  
主な活動は、夏休み中のラ

ジオ体操、野外キャンプ、学  
習会活動です。ユニークなのは  
「農産物の育成」という体  
験的な活動です。これは会館  
の敷地を活用しての力ボチャ  
とジャガイモの栽培です。秋  
には、大きく実った作物を食  
したり、お年寄りの方にお裾  
分けします。また、学校週五  
日制に対応して「静和悠遊ク  
ラブ」を立ちあげました。会  
館を開放してゲーム会や読書  
会を行うのです。子供達も喜  
んで参加してくれます。

二、老人生きがい行事

六十五歳以上を対象として  
「元氣会」を結成しており、  
活動内容は、春の集い、漬物  
の会、新年の集い、絵手紙の



会を実施し楽しんでいきます。まだ福祉委員の方々の力を借りておりますが自立が願いです。

大きい事業として「芸能の集い」があります。かく

### 「子どもは町内の宝」を合言葉に

花園町内会

会長 佐々木 昭

花園町内会は戦前は東〇〇線南〇〇号と呼ばれていたが、千歳川と千歳線の交差する北側一帯、形が扇に似ていることから誰云うことなく末広(昭和二十六年と名づけ、昭和四十二年まで末広第一(現在の花園・高台・稲穂・清流の一部)第二(現在の末広東・中・西区)と呼ばれていました。

四十年代に入り都市化の進展とともに、末広第一を末広新町・富丘となり、昭和五十五年に末広新町(東・中・西・高台)を花園に改め現在に至りました。

当町内は、現在八八一戸、一、九四〇人で男女ほぼ同数で戸当たり二・二人の町であります。町内会には約七〇〇戸の加入がありますが、ご多

された芸能を披露し合い会員一同大いに楽しむ会です。

\* 厳冬の北風吹ききたる

おりなれどわが静和は和風に包まれており\*

分にもれず、少子高齢化で老人世帯が多く、活動の中心はどうしても福祉型に偏らざるを得なくなっております。

しかし、「子どもは町内の宝である」との合言葉で、何とか活発にしたいと、青少年部を中心に試行錯誤しております。夏休みを挟んで「緑のキャンプ」「子供盆踊り」千

歳神社祭典に合わせた「子供神輿」等種々ありふれた行事をしておりますが、あくまで子供中心の企画運営をべしに、大人は脇役であるべしとのもと取り組んで参りました。特に圧巻は盆踊りの太鼓打ちですが、すべて子供に任せております。三日間通して開催しているので、相当の人数を確保しなければと八月に

入るとすぐに、連日稽古をして今では三十人もの数になりました。しかし悩みもあります。最終日は子供の盆踊りの後、北海盆歌を大人向けに夜の九時半くらいまで続けるわけですが、子供の門限は九時までですので、途中で止めるわけにもいかず親、保護者の協力をいかにするかが、これからの課題です。また、秋十月には、町内会館を二日間開放して、町内文化祭「コスモス祭り」と銘打ち、普段の趣味、娯楽を通してかくれた逸材、作品を掲示・発表し、老若男女一堂に会して楽しむ企画をしてみました。今年は第三回目ですが、どんな企画に



するの非常に楽しみでもありません。福祉活動については、町内選出の民生・児童委員と



### ふれあう心を大切に

「町内会の活性化に向け

多彩に行事を展開」

桜木町内会

会長 伊藤 栄太郎

福祉委員との合作で、福祉委員会を二年前に設立し、町内イベントへの参加奨励・除雪支援・おせち料理の配布・町内会役員と独居老人とのお楽しみ昼食会等を企画し、できるだけ交流が図れるよう工夫しており少しづつ成果が出てきたと思っております。今後、町内会館をフルに活用して、子供から大人・高齢者共々が、手を携えていける町内会づくりを目指して頑張る所存であります。

桜木町内会は、昭和五十年「上長都南町内会」として設立、五十四年「桜木」に改称し今日に至っております。

設立時二十五世帯、六十一人であった人口は現在七十七世帯、二、一三八人を擁するまでになりました。世帯別年齢構成のバランスも良く、高

齢者(六十五歳以上)人口二〇七人、高齢化率は九・七%

比較的低くなっていますが十四歳以下の年少人口四一五人、一九・四%という数字が下支えする形となっております。少子化の進む中、子供が多いということは町内会の将来に夢と希望を与え活力を感じさせます。

私共の町内会は千歳市の西端の奥まった位置にあり、区画もすつきりして落ち着きを



感じさせます。隣接する二つの公園にはパークゴルフコースもあり、また勇舞川のかすかなせせらぎも聴かれ、自然環境に恵まれた住宅地域と云えます。そのような地形が町内会のもとまりをよくし、会員の中に互いに心のふれあいを大切にし、住み良い町内会創りに努めようとの意欲を高めているように思われます。その意欲に支えられ、町内会では活性化に向け、様々な行事を展開しておりますが参考迄に挙げてみます。

春秋二回の大掃除、会館脇でのお花見、三世代交流を図



る運動会、盆踊り、七十歳以上の方が対象の敬老会、伝統行事を体験する子供神輿、子供餅つき大会、パークゴルフ大会、町内だけのミニ文化祭、婦人部研修などです。

個々に紹介する紙幅がありませんが、例えば盆踊りは、4m程の櫓を組み、四方に数十の提灯を吊るして太鼓に合わせて踊りの輪ができます。大人の部では仮装もあります。屋台では焼きそば、焼きとり、とうきび等が飛びように売れ、見物も大勢出て賑やかです。損せず儲けず役員総出の奉仕です。今後とも会員の声に耳を傾けながら行事を工夫し、住み良い町内会づくりに努めたいと思います。

### ●町内会自主防災の組織化について

一月二十五日に第三回理事会有があり、その際、上羽組織研究部会長より、自主防災の取り組みについての現状報告がありました。その概要についてお知らせします。

昨年十二月の町内アンケートによれば、既に自主防災のできている町内会は二十四町内会で、十五年度に結成予定の町内会は十七町内会です。二・三年中に結成予定が二十五町内会がありました。

町連協が自主防災についての、指針を発表し各町内会にお願いしたのが、平成九年でした。

最近、東南海地震、あるいは南海地震についての論議が学会でされております。

地震については、そのメカニズムは、未だ不明な部分が多いのですが、三十年以内に大きな地震が起きる可能性があるというところが、一般的に云われております。

阪神・淡路大地震の際に町内会の果たした役割の大きいことは既に知られております

ので一日も早い自主防災会を町内会に組織して、災害の発生に備え、町内会の人命は、自分達で守るという心構えを整えてほしいと思います。

なお、三月四日の町内会総務部長会議で詳細について説明の予定です。

### ●市長相談日に要望書を手渡す

去る十月八日市役所で市長相談日があり藤原会長他副会長、総務、事務局が出席して、東川市長に町連協の現状を説明し、予算等についての要望を致しました。主要望事項は次の通りです。

- ・町内会館設置補助基準額及び補助限度額の増額と営繕費の新設
  - ・資源回収における還元率のアップ
  - ・町連協運営費の増額
  - ・学校周辺の歩道の除雪の徹底
  - ・学校五日制度に伴う環境整備
  - ・防犯灯設置交付金の全額補助
- その他にも若干の要望について説明致しました。

### 編集後記



今年の千歳は、例年になく雪が少なく過し易い冬でした。春の息吹も少しづつ感じられるこの頃ですが、各町内会も総会等の準備に多忙の事と思えます。

厳しいデフレ不況の脱出に今だ光明が見えない日本経済と、緊迫する世界情勢の中、町内会活動だけは後退することなく、皆さんの英知と熱意で新年度も町連協スローガンの「ふれあいのある町内会活動を目指して」奮闘される事を編集委員一同ご祈念しまして、この稿を終ります。

### 編集委員

- 鳴海二郎 嶺山裕之
- 高橋英三 蔭 唯男
- 毛利敏雄 伊藤栄太郎
- 畑中 盛
- ★事務局 小玉あけみ
- 水谷加寿子